婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

毎月一回一日發行　第二拾八號　大正十一年六月一日發行

家庭と文學

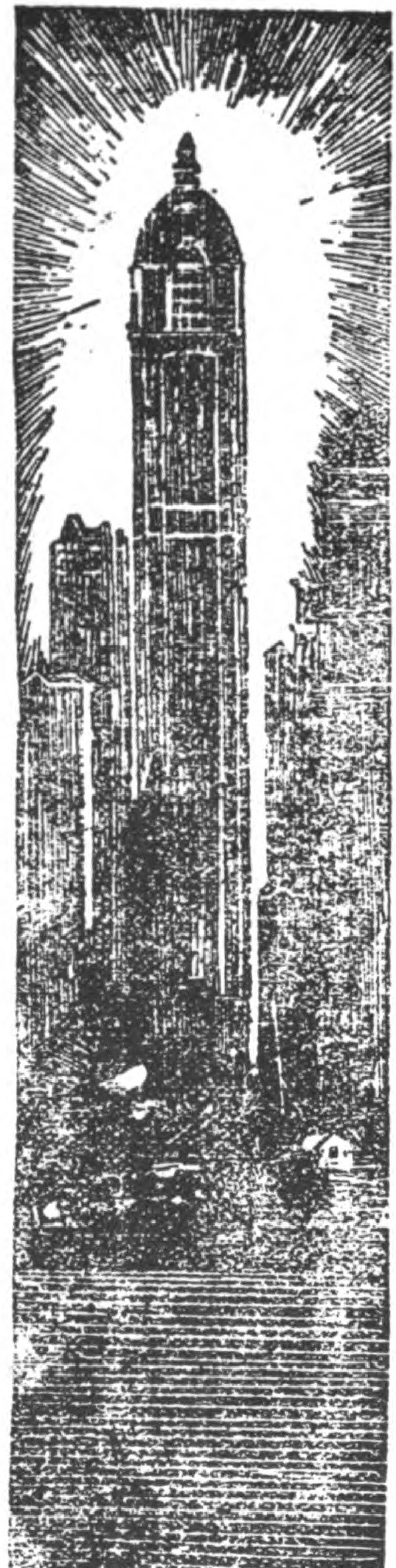
今日の讀書界に於て、最も多く讀まれるものは文學ですが、其の文學のうちでも所謂小說が世間に最も歡迎されて居ります。そして、これは、人が他人の動作に興味を持つてゐることの證據です。

各國民の文學は、要するに、此の、他人の動作に對する興味の結晶に過ぎないものです。何處の國にも神話と云ふものがありますが、これは人間性を抽象化したものに過ぎません。又、歷史に現れてゐる大人物が長く人の記憶に殘つて居るのは、其の大人物の働きが政治上に宗敎上に又は國民運動の上に與つて力があつたばかりでなく、要するに、人と人との關係の標本を造つたからであります。

人が其のように他人の動作に興味を持つてゐる理由は、自分の每日の生活並ひに社會生活の大部分が他人に賴つて居るからでありませう。

其れで、社會學者が人間關係を研究する時に、殊に、家庭を研究する時には、今迄は、小說が好材料でありました。けれども、小說はどんなに具體的に書いても、もと〳〵人間性を抽象的に描いたものですから、此の頃になつてから、社會學者は家庭其のものを綿密に研究するようになつてゐます。

で、私は皆樣が小說を讀むだけ其れだけ各人の家庭を研究なさつたら、本當に、有益だらうと思ひます。



現代不安狀態の原因に就て

歐米各國に於ける不安の空氣が我が國にも押しよせて來ました。そして、此の不安の原因は貧乏から來て居ると人は云ひます。けれども、それは當つて居ない、と私は思ひます。なぜなら、此の頃の一般人の生活が潤澤になつて居ることは誰にでも氣付くことです。今迄には思ひもよらなかつたような豐富な生活を今日の人々は送つてゐます。たとへば、私共自身が小學校へ通つた狀態と、今の子供が小學校へ通ふ狀態とを

比較して見たゞけでも、今日の一般人の生活が如何に豊かになつて居るかと云ふことが分ります。

一言で申ますなら、今日程饑じい人間が國民のうちに少ない時は今迄には無かつたのです。

今日の文明が完全であるとは決して申ません。勿論、缺點は澤山あります。けれども、其の缺點は一部の社會改造家が云ふように決して貧乏から來て居るのではありません。國民が共同的生活に對する訓練を缺いて居る處から來て居るのです。

世界は二百年以上も抽象的な原則の魔力にかゝつてゐました。たとへば、四海同胞主義であるとか、平等とか云ふ原則を、唯、拜んで居ました。原則としては、確かに申分のない最上なものです。けれども、それ等の立派な最上な原則を如何にして各人の生活に實現せしむるかと云ふことに付いての方法手段が不完全でありました。つまり、各人には四海同胞主義的に、又は、平等に行動する資格が出來て居なかつたのです。

共同に對する訓練がなかつたのです。

何處の國でも同じことで、昔からの信仰、昔からの云ひ傳へ、昔からの習慣は、どんなに善いものでも、今は、人々に倦きられ、其の偉力を失ひつゝあります。けれども、それに代るものを、まだ、人は持つてゐません。其處で、大部分の人は自分勝手な標準を造つて行動をとります。善をしようと惡をしようと無限に自由があるのです。人の行動に對する原則と云ふものが今は無くなつたのです。此の狀態が、智力的、政治的、道德的の不安の最大原因であるのです。

人の行爲に對する一定の原則が無い結果は生來の善人も、忽ち、惡人になつてしまいます。善人であればある程、詭辯家に欺かれて、社會を害すようなことをする場合ひがあります、つまり狡猾なものに利用されて、知らず〳〵の間に世間を利用するやうな行動をとるようになります。たとへば、多くの人を苦しめるような會社に投資したり、惡風を宣傳する新聞雜誌の發行に資金を出したりするようなことになります。

此の詭辯家に耳を借すと云ふことがもう一歩進むと、慾張つたり、嫉んだりすることが普通のことのようになつてしまいます。良心は漸々と麻痺して、ツイにはさう云ふ傾向を持つた人が尊敬され、信任を受けるようになり、慾張ることが政治的智識、政治的經驗であるかのように思ふようになります。そして、政治の根本的大原則などは顧られないようになります。

我が國の維新の際の如きは、此の政治的大原則を中心として國事に參與する人は進退を決して居たようです。そして、ツイに成功しました。隨分議論は沸騰し、爭ひも多かつたようですが、併し、其れは原則の爭ひであつて、決して、慾張りや、嫉みや虛榮心ではなかつたのです。故に、日本帝國は速に改造されました。

けれども、今日に於ては、私共はめつたにさう云ふ原則に付ての議論を聞きません。偶々、さう云ふ原則に付て論ずる者があれば其の人は時勢後れとか、現代人の心理を知らないとか云つて嗤れます。で、此の傾向が此のまゝ押し進んで行つたならば結果

はどうなるでせう。

要するに、今日の人間を不幸に導くものは貧乏でもなし、人口過剩でもなし、政府が惡いのでもなし、政黨が惡いのでもなし、實業家が惡いのでも、勞働者が惡いのでもなし、官吏が惡いのでも制度が惡いのでもないのです。つまり、今日の人間を不幸にして居るものは、現代人の全部に共通な利己主義と無學であるのです。そして、此の無學の狀態を救濟し、利己主義の弊を除去する仕事は敎育家の手にあるのです。

今日の小學から大學に至る迄の、國民の肩にかゝつてゐる敎育費の負擔は莫大なものです。勿論、政府の豫算に編入される敎育費と云ふものは比較的僅かであります。けれども、各家庭が負擔する敎育費を數字に現したならば、それは驚く程莫大なものとなりませう。

處が、それだけの費用をかけて、如何に優良な敎員を選拔しても、授業の形式を秀越なものにしても、もし、敎育の目的を誤まつて居たならば、それが何にもならない

と云ふことになります。そして、其の目的とは、國民としての資格を造ることです。國民としての適當な準備をすることです。國民としての資格と云ふことを抽象的な理論的な實際生活とは遠いものであるように思つてはなりません。今、此處で考へなければならない、切實に現實であることを思はなければならないのです。

敎育上の問題計りでなく、政治上も重大問題が今はいくつもあつて、そして、其の問題の解決のしようによつては全國民に甚大なる影響を及ばします。つまり、多くの重大な政事上の矛盾が、今、私共の目の前に突きつけられてあるのです。

明治の初年に於て、我が國民は非常に複雜になつた問題を解決しようと決心しました。當時の志士の非常な努力の下に我が國本來の國是を維持し、其の上に國民の自由を設定し保護し、そして、それを益々發達させようとしました。日本帝國の基礎は確かに其の原則の上にのッかつて居ます。ですから、今日の私共の目の前に橫つてゐる政治問題、産業問題、勞働問題、及び、婦人問題等を正當に解決しないならば、維新

の際に更に新しく確立した我が國家の大原則が害される、否、破壊されてしまうかも知れません。

私共が生て行くに空氣が必要であると同じように政府の形式と國民の自由の形式は必要です。そして、其の、政府の形式と國民の自由の形式とは過去二千有餘年間の國民の内部生活の結晶です。ですから、今日勃發した面倒な諸問題を、前述の歴史、及び、大原則に反するように解決するならば、それは全然解決でなく、却つて問題を複雑にして行くばかりです。

つまり、私共日本人は私共日本人の問題を我が國の歴史に現れてゐる事實に輝して見て、そして、我が國民を善導した大原則によつて解決すべきであります、徒らに、風土を異にし、歴史を異にしてゐる他國民を治めてゐる原則などを持つて來て我が國民に適用しようとするならば、却つて多くの禍を醸すことになります。

其處で、教育家の任務は一層重いと云ふことになります。公に、私に、國民が負擔

して居る眞大な敎育費から云つても、其の他あらゆる點から、敎育機關の任務が最も重いと云ふことは明らかです。そして敎育機關が重要視しなければならない點は、學校組織の問題よりも學校經營の問題よりも、生徒に課する科目の問題よりも、敎師の給料や就職年月の問題よりも、其の他あらゆる學校に關する問題よりも、より重大なる點は、國民としての資格を各生徒に造ることです。則ち、國民全體にかかつてゐる責任は、國民各自が正當に分け前しなければならないと云ふ自覺を持つた、聰明な國民を造ると云ふ仕事です。

要するに、國民を幸福にすることが出來ないのは、貧乏でもなし、諸制度が惡いのでもなし、無學と利己主義であることは前に申しました。そして、其の無學を救濟することも、利己主義の弊を除去するのも敎育家の任であることも前に云つて置きました。

敎育家は、敎育の第一歩として、利己主義と、自己意識との區別を敎へ、奉仕から來る潤ふた充實した生活を示さなければならないのです。幼稚園であれ、小學校であれ、中學であれ、大學であれ、人格の最高な理想、其の表現は、國民全體の、否人類

全體の幸福を增進することであつて、あらゆる、智識、及び、技術は皆其の目的を達するための手段であることを敎へなければならないのです。云ひなほせば、國民としての資格を新國民に授ける、共同的精神を生徒に植へ付けるのが中心點であつて、其の他の事柄は皆枝葉であることを忘れてはならないのです。

もし其の精神を植へ付けることが出來るならば、國を擧げて敎育費を支出しても、それは、決して無駄でありません。其の共同的精神が或る程度迄國民間に確立するならば、あらゆる難しい問題も、もつれた糸をほぐすように、容易にスラ〳〵と解決出來ます。

嘗てエマソンは申しました。『社會を攪亂するものは所謂思想家である。何となれば社會を治めて行くものは思想ではなく、行爲であるから。』と。放慢な議論をして、利己主義と無學とを增長させようとするのが此の頃の流行でありますが、併し、これに對抗して不言實行、無學と利己主義に戰ふことが國民の幸福を增進するもので、そして、此の仕事は敎育家の双肩にかゝつてゐます。



子供の七時代

シエキスピーアが人の一生を七期に分けたことは面白い見方で、誰でも英文學に目を向けた人は其れに興味を持つてゐます、つまり、此の世界は一大劇場で凡ての男や女は皆此の舞臺へ登場しては退場して行く俳優だと云ふのです。そして、各々の俳優が七つの役を踊るのです。第一には、母の膝の上で泣いたり乳を呑んだり吐いたりする赤ん坊で、第二には學生となり輝いた顔して、けれども嫌や〳〵ながらグズ〳〵と學校へ行く。第三には戀を覺へて長嘆息をしたり戀歌を作つたりするのを仕事としてゐる。第四には豹のやうな髭をはやして大言壯言をなし、喧嘩早くなり、泡のような名譽に憧がれる。第五には稍々落付いて來て公平になる。肉付きのよい體に相當な衣

服を督け、髭を整へ、鋭い目を機敏に働かせる。第六番目の役は、彼の鼻の上に目鏡載せて、腰に袋を下げた老人である。此の世界は彼のためには廣すぎるようになる。彼の脛は皺くちやに細くなつたので、若い時の太い脛を包んだ長靴下は用はなくなつた。彼の男らしい太い聲は震へを帶びて來て其の音は不確になる。出來事の多うかつた不思議な一生の終りの幕、則ち第七期になると彼は再び赤子に歸へる、齒もなく目も用をなさず、味も分らず、一切ののものを忘れてしまう。と云ふのです。

シエキスピーアの此の人の一生を七時期に分けたのに倣つて、赤子から結婚期迄を矢張り七期に分けて研究し其の狀態を描いた人がありますが、これはこれから親となる若い母にとつては有益なものでありますから此處に概說して見ます。

誰でもが知るように赤子のうちは一日のうち三分の二は眠つて居ます。目をさまして居る間、親の目付を學んで居ますが、直き眠つてしまいます。やがて目をさますと呑んで又眠てしまいます。笑ふことや手足の指を曲げることとの藝術を學び又眠つてし

まいます。顔を拭かれることに反抗して泣いたり、ふんぞつたりして又眠つてしまいます。赤子の此の生活は誠に單純に見へますが併しさうして居る間に――先づ二年間に――學ぶものは、其の後一生を通して學ぶものよりも重用なものです。

外國語を學んだり、何かの遊戯を學んだりするのは難しいとは云つても、赤子が饑じさを訴へるには泣き叫ぶことが最も有効な手段であることを發見する迄には赤子としては絶大な努力でありませう。又、四ッんばいに這ふことしか出來ない時に立たうとする努力も大きなものであるに相違ありません。赤子は絶へずをとなの自分に對する態度や行動に注意して居るものですが、時々、をとなの行爲は奇怪な矛盾したものに赤子の目にはうつるものであることを私達は注意して居たいと思ひます。

たとへば、やうやく這ひ廻る位ひの子供が床の間の花瓶を見つけて、其處に挿してある花をむしり水をはねかすとします。すると其れを見付けた母の顔には影と光りが現れます。と云ふのは、母は我が子の手足が自由に動くようになつたことに對して無

限の喜びを感じると同時に、其の行爲を矢張り悪戯だとして小言を云ひます、つまり子供の身になると自分の一ッの行爲に對する母親の賛成と不賛成とを直覺します。

目をさまして居る時間よりも眠つて居る時間の方が多く、そして、ものを云はなくも、併し、其の心は機敏に働いて常に新しいものを學びつゝあることは兒童研究家の皆一様に承認して居る處です。生れてから二年間を先づ第一期と名づけて、これを從屬の時代と云ひ第二期は三歳から七歳頃迄を云ふので、そして、これを劇詩的の時代と申します。もの云ふことが出來たり、歩むことが出來るようになると子供はズン〳〵赤子の狀態を脱して行きます。そして、世間と云ふもの丶一端に觸る丶や否や、忽ち精神的のものに心を引かれて、聰明な智慧を現はして來ます。私共をとなは自分の目や耳を精神上の事柄には塞いでしまつてゐます。世間的に賢くなればなる程益々本當のものに目も耳も手も足も用ひなくなります。けれども、子供の智慧は言葉を覺へたり體を動かすことが出來たり、又は、周圍のものに自由に觸れることが出來るように

なると直ぐに劇的行爲をしたり、詩的散文を話します。
生活に疲れたをとなの心を潤し、世智辛い殺風景な現世に新鮮な空氣を供給するものは子供です。幼兒の行動、幼兒の言葉は名優の所作よりも名歌手の歌よりも私共の心に喜びと更新の氣を與へます。夏の旅行に汽車の中などで其のむし暑さ、無聊さに苦しんで居る時に幼兒が乘り合せてゐて無邪氣な唱歌を歌つたりするならば、其れは丁度砂原に歌ふ雲雀、乾き果てた草木を忽ち新鮮にする驟雨のやうなものです。
けれども、七歳から十一歳までの第三期は散文的時代、或ひは、片意地的時代です此の時分には、事實を知りたいと云ふ慾望が劇的時代に持つて居た相像力を破壞すると云ふよりは、むしろ、其の相像力を押へ付けて居る時代です。劇的時代には自分の自身のこと、自分の相像力を働かせるに忙しくて周圍の者などに干渉する心の暇を持ちません。けれども、七歳頃から後になると無暗みに周圍の者をつッついて見たり自分の力を試して見たりしたくなるのです。そして、其の精神は活潑な遊びや周圍の者

との衝突に現はれます。此の時代はいはゞ自己主張の時代で此の點に關しては男の子も女の子も同じです。此の時代の子供の精神は無暗みに躍動して居るのです。で、小難しい言葉を使つたり、亂暴になつたり、先づ、小生意氣になる時代です。ですから兩親の心が其れに對して強く、且ツ、しなやかに應答することが出來ないならば子供を誤まる處が甚大であります。

第四期は十一、二から十四歲頃迄で、これを矛盾時代と申ます。勿論、何等取り立てゝ云ふべきことなくして過ぎてしまふ子供もありますが、併し、大抵の子供にとつては、最も得意な時代で、自分の知らないものは何にもない、自分の判斷は母などの判斷に勝つてゐる、母などは時勢後れだなどと思ふ時代です。ですから、生來は柔順な子供でも此の時分から不柔順になります。そして、兩親を喜すようなことをするのは間違つて居るような、又、さうする義務があるような氣持ちを持つて苦しみます。ですから、此の時代の子供を持つ兩親は子供を支配しようとする態度でなく、獨立の

考へを持ち道理をわきまへて居るものとして子供を取り扱ひ、目上と云ふよりはむしろ子供の相談相手として子供に對して居ないと間違ひます。兩親は嚴肅であると同時に用意周到な理解と豊富な親切とを持つて居なければならないのです。

其の次には第五期で盛んに仲間を求むる集合時代です。勿論此の傾向は前の時代と重なつてゐますが、併し、それがはつきりと現れて來るのです。此の年頃になると男の子と女の子の間に幾分かづゝ差が現れて來ます。男の子はだん／＼戰鬪的になり、女の子を度外視するやうになります。此の頃に撰擇する友の性質が子供の將來を定めます。不良少年少女の出るのも亦此の年頃です。此の時代の少年少女がもし家庭的につまり、父母兄弟姉妹との間に隔意なき和合があるならば彼等は其處に仲間を求むる氣持ちを滿足させることが出來て惡友に誘ひ出されるやうなことはないでせう。又、さう云ふ子供が撰擇する友は、父母も贊成することの出來る良友であり、良友であるからお互ひに信實を守ることが出來ませう。そして、此の眞實が未來の眞面目な國民

を造るのです。

十四五歳から十六七歳頃迄は余まり服裝や作法にかまはなくても、十六七歳を過ぐるとさう云ふことに注意するやうになります。これが第六期で、そして、ローマンテツク時代であるのです。これは活潑な時代で、無暗みに中年者や老年者に輕蔑の目を向けます。そして、其の輕蔑の目は中年者や老年者を、殊に、人生の苦樂を味ひ盡して優しくなつてゐる年長者を困惑させます。けれども、其の冷やかな好ましくない態度の裏面には、後に現れる優しい温い性質が匿されてゐるのです。

熱誠と犧牲の精神に最も多く富んで居るのは此の時代です。そして、此の年頃の時代の娘達は彼女等の無邪氣さ、愉快さ、優しさ、美しさを發揮するよりも、彼女等の勞働力を準備しようとします。これが文明の生命であるのです。そして、此の時代の青年男女を本當に見ることの出來る者は永久に年をとらない藝術家のみでありませう。

併し、咲き誇つた花もやがて散らねばなりません。ローマンテツク時代は何時の間

にか過ぎて、第七期の問題の時代に移ります。極めて自然に幸福に此の問題の時代を通り過ぎてしまう人もありますけれども、多くの青年男子や殊に青年女子は年々此の問題の時代にひッかゝつて苦しむ者が多くなりつゝあります。で、此の問題の時代を了解するためには心理學よりも、むしろ、小說によるのが有利であると云はれてゐます。シエキスピーアは、所謂問題の時代のポルシヤがバッサニオによつて幸福を見出したことを描いて居ます。ジョージ・エリオットは淋しいマギーが淋しい中にもどうにかして自分を發達させようと苦心してゐる狀態を語つてゐます。其れは皆問題時代の青年男女の姿なのです。

子供の成功を冀ふ兩親は今迄に述べて來た子供の七時代に附て正確に了解して居る義務があります。子供を立派に育て上げるには十人の伯母さんが必要であると云つた人があります。甘い伯母さん、敎訓好きな伯母さん、やかましい伯母さん、奬勵好きな伯母さんと云ふやうに、そして、これは皆子供の母を助ける生きた心理學者、最も

有益な相談相手であるのです。子供が怠け者だと云つて母親が絶望してゐる時に、一人の伯母さんが其の子供の智力上の仕事に適して居ることを發見したり、子供が親の云ふことを聞かないのは獨立の判斷力を持つてゐるためだと一人の伯母さんが云つたりしたことがあると云ふように。

植木屋は庭の樹木の成長工合を常に注意し、重い枝には支へを與へ、雜草を拔き、水を注ぎ、樹木全體に日光が行き渡るやうに工夫しますが、子を持つ親も、亦、子供に對しては此の植木屋以上の注意が必要であります。

凡て愛は其の責任を持たなければならない、責任を持たない愛は、やがて、墮落し果て、そして、單なる感情が、又は肉慾のうちに消散してしまう。



新獨逸婦人の生活

『獨逸は文明に對する脅威である。外見は非常に苦しそうに、疲弊したように裝ふて居て、内實は新しい力を着々と蓄へ、そして、再び世界を相手に不意に大攻擊を開始しようとして居るのだ。』と云ふ疑ひを獨逸は或る方面から受けて居ますが、併し、直接に獨逸を視察し、詳細に調査した人の話によりますと其れは全然誹謗であると云はれてゐます。

獨逸へ入ると直ぐに誰でも、唯物的及び軍國的に繁榮した獨逸は最早過去のものだと云ふ感じを持ちます。道を行く人は皆青ざめて瘦せてゐて、街路に横へられてある

僅かの荷車はうす汚なく、商店の煤けた窓には僅か計りの貧弱な商品にマルクの大きな數字が目立つて居るし、以前は何處へ行つても目に付いた軍服姿は今は影だも見へない、實に獨逸の外觀は全く變つてしまつたと云ふことです。

處で、獨逸の變化は外部計りでなく、其の内部は一層甚しく變化して居るのです。舊獨逸に於ては一切の政策問題を政府の手に任せて國民は平氣で居つたのですが、新獨逸に於ては、政治問題經濟問題其の他あらゆる問題に關して國民は絶へず論議し、協議するようになりました。數ある變化のうちで最も著しいものは、軍人の姿が全然隱れると同時に、婦人が公的生活にどん〳〵這入つて來たことです。今迄は子供と臺所のことに計りかゝはつて家庭内に蟄居して居た婦人が、一九一九年五月新憲法が發布されて始めての選擧に於て三十九人國會議員に選まれ、百五十五人の婦人が聯邦諸州の立法部に入り、千四百人の婦人が市會議員や郡會議員に選まれました。米國及び英國のたつた一人づゝの婦人代議士に比較して見ると其處に大きな差があります。

昨年六月の選擧に於ては、軍事に參與して居た夥しい數の男子が公的生活に歸つて來たのですが、其れでも猶又三十人の婦人が代議士に選まれ、其の外、獨逸共和國中の婦人市會議員の數は全體の市會議員の十一パーセントを占めてゐます。で、以前には國會開會の日に立派な制服や、勳章や軍服を着たきらびやかな人達で滿されて居た場所が、處々に婦人をまじへた單純な服裝をした人計りになりました。こう云ふ方面の仕事には無經驗である筈の婦人達が實に驚くべき正確さと着實さを以つて仕事をはかどらせて居ると云ふことです。つまり、婦人は議會に於て、婦人の爲すべき仕事を正當に爲し得て得るのです。

一九二〇年五月伯林に於ける選擧期には婦人の辯舌家が澤山出たと云ふことですが一般に此の頃では演說會のプログラムの中に婦人が居ないと聽衆は滿足しない。それで大抵の場合辯士は男子が二人ならば婦人を一人入れると云ふ割合ひにしてゐるようです。

今の處では、婦人の大臣こそまだ出來ませんが、併し、婦人が可なり重要な位置を占めてゐて、殊に、文部省、勞働局、社會局に重きをなされてゐます。中でも、ガートルード・バウメル女史と云ふ博士は婦人論者中の錚々たる人で、教師であり文章家であり、そして「婦人」と云ふ雜誌の編輯者であり、國民婦人會の長い間の會長であり其の上に、内務省の教育部の部長です。ですから、女史の位置は獨逸國民の教育政策の全部を形成する勢力があるのです。小、中、大學、其の他あらゆる種類の教育機關に對して勢力を持つてゐるのです。

コロンに於ける都市行政學校は今迄男子のみに入學を許して居たのでありますが、今度、婦人にも其の門を開いたことによつて獨逸婦人は永久に政治生活に這入つたことになります。最近國會を通過した法律は、又、學問上、商業工、或ひは漫遊に外國を旅行する獨逸婦人の利益を保護するために、諸外國の公使や大使として婦人を送ることを規定しました。そして、婦人公使や大使は諸外國に於て活動して居る獨逸婦人

の勤務を本國政府に通信すべきと云ふことも規定されました。

亞米利加婦人は益々多く社會事業に這入つて行くに反して、獨逸婦人はズン〳〵役人になります。役人になる婦人を養成する學校の大抵は少なくとも經費の一部分を國庫からか或ひは市から補助されてゐます。そして、其の學校を出ると直ぐ就職しますが、其れは米國のやうに慈善事業に入るのではなく、有給の役人になるのです。と云ふのは、米國ならば慈善團體の手にかかるような嬰兒、貧乏人、罪人、狂人等の生命と健康と幸福に對して、其の責任を國家が認めて居るからです。

最近に發布された法律によつて、二千の兒童局が設立されました。そして、胎兒並びに嬰兒の健康、通學して居る兒童及び退學後の兒童の生活等に注意して居ます。

何處へ行つても獨逸では青年に適當な職業を授ける職業紹介所がありますが、其處の事務の大部分は婦人の手で處理されて居ます。敎育家の任務は重大であるにも拘らず何處の國でも其の月給は安いですが、併し、新獨逸は其の點に覺醒して居るので、

獨逸の婦人敎師は何處の國の敎育家よりも優遇されてゐます。又、舊獨逸とは違つて新獨逸は婦人の敎員や役人に獨身生活を强ゆる習慣を廢してしまいました。そして、敎育上の職務であれ、行政官であれ男女平等の給料を理論上は認めてゐますが、實際にはまだ異つてゐる處もあります。

で、今日の處では校長とか其の外高い位置の敎職に居る婦人が少ないので、女敎員俱樂部や婦人同盟會の要求によつて中學及び其れ以上の學校の敎員となるに必要な過程を婦人にとらせるための方法を設けて居ます。法律上の男女平等を實際上の平等にするには此處數年の大努力が必要だと觀測されて居ます。それで、其の目的のために婦人自身は勿論、女敎員會を始めあらゆる婦人團體及び婦人の新聞雜誌が實際上の男女平等を實現するために努力してゐます。それには前に云つた『婦人』『國家と婦人』『新世紀の婦人』等があります。

長い以前から大學での研究は婦人も男子と同じ機會が與へられてあつたのですが、

併し、研究を終へていざ就職と云ふことになるとどうしても男子と同じような機會がありません。たとへば、醫學を研究してそして醫學士の學位を得ても實際上の經驗を得ることが婦人には困難だと云はれて居ます。それで、病院で醫者を招聘する場合には幾人の男醫に幾人の女醫を必ず加へるようにとの規定が設けられました。

舊獨逸に於ては、婦人が法曹界に入ることを全然抗んで居ました。けれども、新獨逸に於ては、婦人に法律を研究させ辯護士になる試驗を受けさせます。けれども、判檢事の試驗はまだ受けさせませんが、早晩其れが可能になる見込みがあると云はれて居ます。大學の婦人講師は澤山ありますし、幾人かの敎授もありますし、又、神學を研究して牧師になつた婦人も可なり澤山あります。

獨逸全般が窮迫してゐて、中流階級、智力階級、及び、日給生活者が貧乏に陷つて居るにも拘らず、大學に入る婦人の數が益々增加して來ます。そして、如何なる家庭でも娘に必ず何等かの職業によつて自活の道を授けて居ると云ふことです。けれども

何と云つても、勉學には男子よりも女子に不便が多いので、此のまゝでは男女の不平均が容易に除去されないと云ふので、前述の雜誌『婦人』などは志ある、けれども、生活に餘裕のない女子を補助するように『婦人俱樂部』に要求して居ます。

獨逸には、又、主婦同盟會があつて全國に渡つて百萬の會員があり、伯林だけでも二萬人以上の會員があると云はれて居ます。そして、其のうちの三人は國會の委員會に椅子を占めて家内勞働に關する規定を造りました。何處の國でも同じことで殊に都會に於ては此の頃家庭に雇はれる者が拂底です。其處で、其の同盟會の婦人達は職業紹介所を造つて一日に二三時間づゝ勞働する派出婦を世話してゐます。

雇人を置くことは奢りであると云ふ理由の下に獨逸では一人の雇人に付ていくらと云ふ税金を課せられます。二人置くと其のうちの一人には三倍の税金が課せられます。ですから、主婦は非常に骨が折れるので――文明的な便宜がなく元始的な方法で家事をとつて居る者が多いので――主婦同盟會では其れ等の莫大なる負擔に苦しんで居る

妻や母を樂にしやうとしてあらゆる方法を講じて居ます。其のうちで重なるものは臺所を家の中心にとつて、そして、其處へ現代的の便宜を皆備へ付けると云ふ工夫などです。

農業地では金になる砂糖や煙草を多く作るために小麥や裸麥が少なくなるので政府が其の傾向を妨止しやうとして居ますが、主婦同盟會は政府の其の努力に力を合せて居ます。一言で申ますなら、職業婦人と同じく或ひは其れ以上に新獨逸の主婦達は新しい國民生活を建設するために絶大なる努力をしてゐるのです。

父を、又は、夫を、或ひは又子息を失つた家庭の損害、殆んど絶望的な經濟上の苦しみ、其の上に戰爭に負けたと云ふ國民的屈辱を感じて居る獨逸婦人は、他國の婦人が相像することも出來ないような艱難と戰ひつゝあります。淋しさ苦しさに疲れ切つて居ながらも、猶國家のために、未來のために計畫をし、努力をする決心と勇氣とを持つて居る新獨逸の婦人は賞讃に價するものであると思ひます。



生活改善と日本式家屋

此の度女子教育者大會が東京に開かれました。そして、文部省の諮問案なる『女子の研究心を一層増進する方法如何』と云ふことに關して、討議がありました。そして、答申案として決議になつた處は『女子に研究的態度が劣つて居るのは、主として傳統的に女子は男子の附隨物と認められて居る結果、其の自主的精神が萎縮して居るからである』と云ふのでありまして、其の萎縮した精神を復活させるに付ての方法が、又、討議されましたそして、女子の研究心を増進する道として、女子の自主的精神の涵養と云ふことが擧げられました。

　すると、五月一日の時事新報の論説はそれを評して日本の家庭は繁雜で面倒であるから、婦人は、殊に、家庭婦人は二六時中家事に沒頭して居なければならないから、どんなに精神が旺盛であつても到底研究心など起る餘裕がない。生活の

改善を實行しないならば女子の研究心を増進することは出來ない。全國女子敎育者大會は女子の研究心を増進するの途を『女子の自主的精神の涵養』に求めたけれども、自分はこれを生活改善に求むるを以て適に直接有効の方法と認む。と結論してありました。

そして、其の生活改善と云ふのは、住宅や衣類が近年著しく西洋風になつて來たのを幸ひ、生活の方法を全部西洋風にしてしまへと云ふのでした。

勿論、私は時事新報の論説の結論に全然反對するのではありませんが、唯、其れに付ての參考ともなるものを次に擧げて見ます。

日本の家庭生活が複雜で面倒であることを私も認めます。西洋風の方が戸じまりと云ひ又立ち働きに便利であるには相違ありません。けれども、今、直ちに日本風の家を西洋風にしようとしましても多くの人にとつては第一經濟が其れを許しません。のみならず、疊の上で育ち、そして、永年疊の上で生活に慣れた人が、急に、朝起きるから寢る迄西洋風に椅子に計り腰かけて居ることは耐へきれないことです。これは米國などへ行つた人が、殊に、婦人が經驗してゐることです。外を歩いて歸つた時や骨の折れる仕事をした後でやれ／＼と思つて休まうとしても椅子では體が本當に休まらないです。どうしても足を曲げて坐らなければ體が承知しないのです。そ

れでも、どうしても外に方法がないならば止むを得ず我慢してしまいます。そして、三年五年と我慢して居るうちには、椅子に慣れて來ます。

外國へ行けば、さうするより外に方法がないから止むを得ずツイには慣れてしまいますが、日本に居ては其れは隨分難しいことであるに相違ありません。

それでも、たゞでゞも出來ることならば、便利だと云ふみとめが付き次第、すぐに西洋風に直してしまうでせうが、經濟上の理由がありますから、全然西洋風にすることは急には出來ない相談だと思ひます。

家にしてもさうです。亞米利加では亞米利加の氣候に適するように、朝鮮では朝鮮の氣候に適するように日本では日本の氣候に適するように永年の間の工夫が結晶して出來て居るものでありますから今、これを急に西洋風にしてしまうことは考へものです。昨年殺されなさつた原さんが盛岡へ普請をなさるに付て、職人を全部東京から連れて行つて、大變氣の利いた立派な家が出來たさうです。家としては申分のない、其の地方では見ることも出來ないようなしやれた便利なものだつたさうですが、さて住んで見ると、其の地方の寒さを防ぐように出來て居ないので、とても、其のまゝでは住むことが出來なかつたと云ふことを私は聞きました。此の問題に付ては嘗て山田嘉吉氏が一度話したことがありますから、それ

を次に擧げて見ます。

日本家屋の庇と緣側

私は外國に二十餘年住んでゐたので、西洋家屋と日本家屋との比較を經驗してゐるから家に關する感想を二三話して見たい。

暑いところ、寒いところ、山國、海岸といふやうに、私は可なりいろんな處に住んで見た。何處へ行つてもその衣服の造り方に違ひがあるやうに、家の建て方にも違ひがある。その土地になじまないうちは、隨分餘計な馬鹿げたことをしてゐると思ふけれども、しかし長く住んで見ると、それが皆必要と經驗とから來たものであることが分る。

日本へ歸つた當時は、緣側なんて餘計なものを造らないで、それを座敷の中へ取入れたらよからうにとか、また、庇をもつと淺くすれば家の中まで光線が入つて健康によからうになどと考へたものだ。その內に、その一つ一つに理由のあることを發見した。日本のやうに雨の多い夏暑いところでは、深い庇と緣側は絕對に必要なことが分つた、庇の淺い緣側のない西洋建では、夏の雨の日にはどうすることもできない。窓をしめておけば暑いし、開ければ雨が入つて來る。けれども深い庇は外氣と內氣とをよく調和させる。

かういふやうに、日本の家屋が、今日までに發達するには、一人や二人の頭から出たものではなく、長い間の經驗と工夫

の結果できたものである。それは外國の家屋についても同樣で、地勢、氣候によつて、それぞれ異なつた風に發達したものである。そこで外國との交通が盛んになつて、彼の長を取つて我の短を補ふといふことになつたが、しかし多くの場合その長をとるといふよりは、むしろ新奇を好む方に傾いて、その結果、土地に合はない俗な家などもできたのである。勿論徒らに舊を守ることはよくない。改良すべきは改良した方がいゝが。

日本の家屋と着物の色

このことは衣服についても同じことである。かういふ氣候に住みよいやうに建てた家に都合のいゝやうに着物の型や色までも選ばれてゐるのである。日本へ歸つた當時は、日本の着物の色が皆陰欝なのが眼について、なぜもつと西洋人のやうに晴れやかな色や柄を選ばないのかと思つたが、これもやはり考へが淺かつたのが分つた。西洋、殊に米國などの家屋は、皆ペンキ塗りで、どんな小さい町へ行つても明るい。それを背景にしてゐるのであるから、自然、衣服の色も柄もはつきりしたものになる。けれども日本の家屋は皆ねぼけ色をしてゐるから、西洋人のやうな色や柄の着物を着たならば不調和である。さういふことを初めから意識して選んだわけではなからうが、ちやうど水が低きに從つて流れるやうに、自然に建物と衣服の調和がとれたのであらうと思はれる。

であるから、衣服の改良は建物の改良から來なければならず、建物の改良は、地理と氣候とを研究した上で着手しなければならない。さうして改良すべき點が正確に發見できた時は改良は至極結構でそれは世の進歩である。進歩とは自然に人爲を加へることであり、自然の缺點を補ふことは文明である。

そこで私は現在の日本の家屋を自然と見てそしてその不備の點を漸々に補つて行きたいと思ふ。つまり外國に生へて外國で發達したものをそのまゝそつくり我國へ移し植えるやうなことを好まないのである。模倣は決して健全でもなく有益でもないから。しかしとにかく現存の日本の家屋を除々に改良して行くことは有形無形に利益である。

歐洲の大戰爭が世界の人類に與へた損害の大きかつたのはこゝにいふ必要がない。同時にまた間接に利益を與へた事もないとはいへない。今まで氣付かなかつた不備な點や、隱れてゐた點を暴露したのなどがその例である。家屋の重要さを見逃してゐたのに氣付かせたのもその一つである。實に今度の戰爭によつて新らしい意味に於ける家屋の重要さを敎へられたのである。つまり何れの國民も、國民が持つてゐる家屋の發達以上には發達してゐないといふ事が明らかになつたのである。健康の見地、道德の見地、兒童保護の見地、産業能率の見地、國民としての見地、卽ち文明の見地から家屋の問

題は根本的のものであるといふことを發見した。人々は家屋の國民的意味を知ることに於て非常に鈍感であつたのが分つた。

改良は純日本式を基に

この點に就いて最も進歩してゐたといへるのはやはり獨逸である。獨逸は地理によつて國防をすることが困難な國であるから、國民の質と武器の精選とによつて防衞する外はなかつた。で獨逸は二三十年以前既に、國民が不適當な家屋に住んでゐる以上は、産業上の能率の増進も軍事上の能率の増進も望み得るものでないと氣付いて、一般家屋の建築に就いても常にこゝに留意してゐた。これは獨逸以外の國でも、獨逸ほどではないが、各考へてゐたもので、白耳義ではこの頃、國家の産業を盛んならしむるには、如何なる貧乏人にも家屋を所有させねばならないと考へて、その政策をとり、着々とその理想を實現しつゝあるときいてゐる。

英國もまた社會は國民に適當な家屋を持たしむる責任ありといふことを法律とした。米國の建築は折衷主義であつて、地理上の關係や、國民の特徴といふものが無視されてゐた結果、建築に於て成功した國ではなかつた。けれども、この頃に至つて、國情を考へて米國式なるものが造られるやうになつた。この世界の表面を變化させたものは農業と建築であるといはれてゐる。建築術は啻に一個の家

（以下三九頁へつゞく）

政界に一歩入るに當つて

一度、本誌上で云つたことがありますが、政治の性質は變りつゝあります。過去の政治は主もに國防、外交、秩序維持でありましたが、今日に於ては、政治の範圍はだん／＼擴がつて、非常に膨脹した其れ等の事柄に加ふるに、公衆衛生とか、扶養者のない老年幼年者の保護とか、あらゆる產業、運搬、あらゆる種類の教育、又は、住宅、食料、被服料等のこと、其の外には又貨銀と物價の調節と云ふようなことも取り扱はなければならなくなつてゐます。

そして、それは皆婦人と密接な關係があるのです。政府者の無能と云ふことを聞くのも隨分久しいことですが、それは一面無理のないことかも知れません。なぜなら、政治の性質が漸々と變つて來てゐるにも拘らず、今の政治家は依然とものまゝの態度で居るのですから、行政機關と云ふ事が圓滑に廻らないのが當然であるかも知れません。で、今後の政治は、有効に其の使命を果さうとするなら

ば政治とは密接な關係を持つてゐる婦人の手を借りなければならなくなります。一例を擧げるならば、政治家が切齒扼腕してもどうすることも出來ない、物價調節は消費者である各家庭婦人が全國的に連絡を取るならば、忽ち調節されます。

婦人と政治とは其のやうに密接な關係があるのです。ですから、今年の四十五議會で治警改正案が通過して、そして、五月十日からいよ〳〵婦人が政界に一歩踏み入ることが出來るようになつたからとて、一部の婦人達がして居るやうに、嬉しいの、御目出度いのと云ふ理由は少しもないのです。

男計りでは成り立たない、否、存在しない此の社會を處理する政治に婦人が發言を止められて居るなどと云ふ馬鹿氣たことが存在して居るのが既でに可笑しなことであつたのです。殊に、婦人はまだ其の權利を半分しか取り返して居ない、百圓取るべきものを五十圓しか貰はない、であるのに、嬉しいの御目出度いのと云ふのは、それこそ本當に御目出度いと思ひます。

とは云つても、實際には矢張り惡い氣持ちもしない。貰はないよりも勿論よい。で、それは、こう云ふことになるだろうと思ひます。私共は平生健康體であるのが普通です。けれども、時によると病氣をする。そして、其の病氣が直ると喜んでお祝ひします。平生の狀態に歸つたのですから當然のことで、わざ〳〵お祝ひ

する理由は少しもないのです。併し、實際には誰でもお祝ひする心持ちは、ことによると死んだかも知れなかつたのが丈夫になつたと云ふ嬉しさでせう。

治案警察法が改正されて婦人達が喜ぶのは此の意味でありませう。此處に新しいものが出來たわけでも、新しい生命が生れたわけでもなく、唯、取るべきものを取り返へしたゞけです。普通の狀態に歸つたゞけです。否、普通の狀態に歸へらうとする途中にあるのです。まだ〲安心して祝ひ心になどなつて居てはならない。大いに自重して、しつかりともう一歩進むことに努力しなければならないのです。そして、男子が持つてゐるものだから、婦人も要求すると云ふのではなく、婦人の大使命を完成するための準備であらねばならぬことを忘れたくないと思ひます。

（三六頁よりつゞく）

に關するのみならず、一都會を造るに關係してゐる。農業が文明の父であるならば、建築は文明の母である。

各國との交通が頻繁になり、距離が短くなるにつれて、人は外國の形式ばかりを模倣したがるが、これは避けたいものである。日本の家屋は日本の氣候と地勢に適合して工夫された現存の純日本式家屋を改良して、國民の健康と能率の増進を計らねばならぬと思ふ。

海外婦人界時報

諾威に於ける母性保護

一九一七年九月、諾威クリスチャニア市に於ては、養老年金法を制定するための委員會が設立されましたが、其の後クリスチャニア勞働婦人協會の努力の結果未亡人保護法なるものをも制定すべきと云ふ提案が、其の委員達を通じて年金局に提出されました。市のうちには不幸な婦人や憐れな子供の數が少なくないと云ふ事實を誰でも知つて居るので忽ち、母の年金法を制定するための委員會が出來ました。パスター・ハンセン、エミル・スタング、ロバート・ジャコブソン、アンナ・ブレーム等が委員に擧げられたのでした。

委員達は、其の年金を未亡人に限つてはならない、離婚した婦人、夫と別居して居る婦人、及び、私生兒を抱へて居る婦人に迄延長すべきだと主張しました。そして、私生兒が十五才又は十七才迄、

もし、學校に籍を置いて居るならば、其の保護を繼續すべきだと云ふことになりました。けれども、其の年金法の適用を受け得る者はクリスチャニア市内に十五ヶ年間住居し、現在住居してゐる者でなければならない、そして、子供が一人ならば婦人が受ける年金は幾何、二人なら幾何、病氣なら幾何と云ふことが詳細に規定されました。

　これに付ては、議論が隨分沸騰しましたがツイに一九一九年九月二十五日に此の議案は通過して、そして、一九二〇年以來、凡ての貧困な母は其の規定の保護を受けて居ます。母の年金局本部が設立され、母の年金に關する凡ての事柄は其處で取扱はれてゐます。そして、其處の局長はラグナ・ブーグ女史です。女史の助手は八名あつて、彼等は女史の命を奉じては年金を受けて居る凡ての母達を月に一回づゝ訪ねなければなりません。そして、其の母達の生活狀態を一々詳細に局長に報告しなければなりません。

　ですから、此の局に働く人達は、自然貧困な母達の家事の取り方や、其の缺乏や、其の他一切の家庭の狀態が委しくなります。そして、時には忠告もしたり、又は、自分の手を下して手傳つたりします。母が病氣の場合には相當の病院へ連れて行つたり、家に殘された子供の世話をしたりします。不幸にして、母が死亡した時などは、さう云ふ子供を收養する處へ連れて行きます。ですから、やがて

は兒童の年金と云ふものが制定されなければならないと云はれてゐます。

婦人上院議員の嚆矢

白耳義に於ては スパーク夫人が上院議員に選出され、そして此の事實は倫敦領事の證明もある。かくの如くに婦人が上院のうちに議席を持つたことは、婦人の參政權、被選擧權が速かに完成さるべき端緒であるとして、國際婦人參政權聯盟の婦人達は躍如としてゐます。

加奈陀の婦人代議士

加奈陀の最初の婦人代議士はマクフエール女史です。選出された後に女史は云ひました。『全加奈陀婦人を代表しなければならぬこと、そして、私の行動が全加奈陀婦人の利益とも不利益ともなることを私は決して忘れない。國家的に組織された婦人團體、及び其の他の多くの婦人團體は、改革を要する法律に全加奈陀婦人の注意の目を集めることに長年の間、努力して來られた。彼女達は行く處迄行つたのだ。で、私は彼女達の希望に對しては聽覺を鋭くし、彼女達の利益のために、彼女達の希望を議會に提出するの便宜を計ろうと思つてゐる。けれども、どの位ひのことを完成し得るかは自分にも分らないが、とにかく、最初は冷靜な態度を以て、先づ知るといふことを心掛けそして、ベストを盡す決心である。』と。

合衆國の婦人市長

北米合衆國に於て、市長の椅子を占めた婦人は今の處十四名計りあります。そ

して、それは大抵小さい都市です。婦人に此の權能が與へられて以來日がまだ淺いので勿論市長としての經驗がないのですから、小都會から婦人が手を付けて行くことは利益でありませう。カンサス州テーャー市の市長に選まれたアビー●フオーレス夫人は云つてゐます。『今度市長に選まれた婦人達は皆眞面目な人達である。故に、自分等の無經驗を理由に與へられた位置を辭退するならば、其れは同性のために忠實を缺くと云ふことを皆感じてゐる、此の位置を利用し、最上に努力し、そして、婦人の理想を現實にするのが我々選まれた者の使命である。』と。

又、オハイオ州フエーアポートの市長となつたアミー●クーコネン孃はペンシルバニアの醫科大學を卒業し、博士號を持つた青年女子であります。まだ二十三歲の青年女子が市長の椅子を占めるに至つたに付て可なりの反動があつたことは想像出來ます。とにかく、醫學を專攻した孃は、丁度化學者が藥材を解剖するように市を解剖しては適確に有効に施政をとつて居ると云ふことです。『あなたの主義綱領は？』と問はれて、彼女は『別に主義の綱領のと云ふものは私にはない、けれども此のフエーアポート市を清淨にするために私は全力をそゝぐ。市の汚點を一ッづゝ／＼掃除して行かねばならない。』と答へて居ます。いづれにしろ一家庭を清潔に保ち、無駄のないように切り盛りする心持ちで市政を取ることは婦人の仕事として適當であると信じてられて居ます。



斷片

原田琴子

氣忙しい家事の一分二分の暇たもぬすんで、私は書物を手にしようとする、子供を遊ばせながらにも片手には書物を持つて、子供がおとなしい時に開いて見ようとする。籐椅子の上へ子供と一緒に腰かけて

「坊やあれあの楓の葉つぱをご覽、靑いでしよう、それから梨の花は、ね、白いでしよう」

などゝ云ひながら子供がそれに氣をとられてゐる間に自分は頁を開けて一行でも二行でも讀まうとする。かういふことを私は毎日繰り返して行く。赤ん坊に乳を含ませながらにも片手から重い本をはなさない、添へ乳をする時にもきつと枕のそばへ本を開く。だがなんのためにかうまでして本を讀まうとするのか、讀まなければならないのかゝ私には時々疑はしくなつてくる。それはずいぶんと苦しいそのことがいやになつて來たからでも、堪へられなくなつて來たからでもない。家の雜用が忙しくなればなるほど私の本を讀まうとする念ひは一層高まつて行く。然しこの頃私の疑ふのは、そして私の



心を暗くする思ひは、そんなにまでしてそれがつまりは徒勞ではあるまいかと云ふことである。實際落付いた氣分にもなれずにたゞ文字に目を通すだけの讀書の後に何が殘つて居るだらう、ただほんのせめてこれだけ讀んだと云ふだけの儚ない慰めにすぎないものではあるまいか。

私は時々それを疑つて見る、疑りながらにも可なり長い間の習慣でやつぱりそれを止められない、つひにはさうまでして無理に讀書を日々の行事の中から捨てきれない自分の性質をなげかはしく思つてくる。

○

世の中は春になつた――と私は思はず深い息をついた。丁度私は二人の子供の世話で身動きも出來ない時であつた。

いくら外に人手があらうとも子供は母親から離れようとはしない、殊へ年四歳になる上の子は一寸私の姿が見えないとすぐ「お母ちやんはどこへ行つたの」と訊く、私はまたそれをきくとじつとしては居られないで出て行つてやる。生れてまだ間もない赤ん坊はなほさら私の手から離せない。來る日も／＼私は二人の子供を代る／＼みてやらなければならなかつた。さうしてゐるうちに櫻も咲いていつの間にか散つた、庭の楓の芽はすが／＼しいわか葉になつて日光と微風とを怡んでゐる、山吹の花



も咲いてそして散つた。私はある朝椽に立つてしみ〴〵世の中は春だ？　と考へた、そして何ともいへない痛切な哀感に打たれた

私は子供達の世話のために外出の出來ないのを別に悲しくも思はなかつた、出無性な私には、それは何でもないことだつた。勿論今にして絶對に外出が出來ないといふわけはないのだつた。赤ん坊には牛乳を飲ませて自分は出ようとなら何處へでも出られることであつた。（私には到底そんな氣になりきれなかつたけれど）私の心のいひ難い悲哀は、そんなことではなかつた。

私の心には漸々と自分の姿が顧みられた、忘れてゐた自分の年齢も思ひ出せた、そして潮のやうに湧いてくる悲哀――それはなんの悲哀なのであらう。私は愛する良人も子供もまた健やかな兩親も持つて居る、豊かではなくともその日の事に缺けた暮しをしてもゐない、それなのに、それなのに、何がかう心を暗くするのであらう――と私は考へずに居られなかつた。

過去の生活に於て私は、悲しみも苦しみもまた悔いも惱みも知つて居た、然し今私の感じるのは、過去のそれらとは全く違つたしかも一層恐ろしい悲哀である。それが私の年齢によるものであることを私は考へた。

私は三十を越した自分の年齢と、それから宗教といふものとを漠然と考へた、それは切り離され



ものであるやうに思へた。

私は宗教を知らない、過去に於ても、現在にあつても。そしてその故にこの恐ろしい、戦慄するやうな悲哀が襲つて来るのではないだらうか。年と共にある暗さが自分の心にかげるやうに見えるのはそのためではないだらうか。まことに私は年毎に一歩一歩底知れぬ溝渠へと近づいて行くやうに感じる。この世に於けるあらゆるものに信をおき難い寂しさ、私はそれを宗教を求める私の心の前置ではないだらうかと考へた。

然し乍ら現在の生活を外にしてパラダイスのないことを思へば、自分の心をよそにしてどのやうに偉大な心霊も存在しないことを思へば、――私は私の心の生活の著しくも稀薄になつたことを、恐はればならぬのであらうか。

> 宇宙は休みなく鼓動し絶へず変化しつつある。我々の知るものの凡ては完成されたものではなく、完成されやうとする過程にあるのだ。
>
> （ミッチエル）

教育社會學講話（第十五回）

社會心の研究

教室內の社會心

政治界や商業界に於ては一年も經なければ見られないような社會心の變化を、學校に於ては、一學期に於て見ることが出來ます。實に、學校內に於ける生徒間に構成された社會心の一年間の變化は、大社會に於ける三十年間の變化に相當するものだと云はれてゐます。なぜなら、大きな社會に於ては、社會員の全部が入れ代るには餘程の年月を要しますが、學校に於ては、一年毎に全生徒が入れ代るからです。敎師達は、生徒のどの組もどの組も、皆、其の性質を異にしてゐる、つまり、別々な社會心を構成してゐることを知つてゐます。敎師に對し、課目に對し、或ひは又、他の凡てのも

のに對して、各組が皆異つた態度を持つてゐます。けれども、一組の全體の態度が、其の組のうちの一人の生徒の意向によつて定まることがあります。これは、優勢な一人の生徒が組のうちへ這入つて來るか、又は、其の組を去るかした時に最もよく現れる現象です。

たとへば、或る級の態度が非常に無頓着で無作法であるとします。其の級へ非常に美しい勢力のある作法の正しい女生徒が他の學校から轉校して來たとします。生徒達は最初は嫉ましい目を其の新入生に向けて居たとしても、やがて其の新入生の感化を受ける、そして、全生徒の態度は變ると云ふことになります。

又、非常に勤勉な氣風を持つた組があるとします。けれども、其の組のうちの一人の娘が缺席したゝめに其の氣風がゆるんでしまい、其の娘の缺席が一週間も續くうちに全生徒の氣分は全く沈滯してしまつて、敎師に質問するものもなければ、生徒同志學課に付て話し合ふと云ふことも無くなり、生徒達の精神を鼓舞するための敎師の一生

懸命の努力も水泡に歸し、教師が持て餘まして居る時に、缺席し續けて居た生徒が登校した、すると全生徒の氣分が引き立つて來て、以前の通り勤勉な氣風が復活したと云ふ話もあります。

社會心の轉換

社會心の構成となる原因には根抵の深いものと皮相なものとがあります。けれども非常に淺い原因、つまり、些細の出來事が原因となり、其れが發達して、永久的な社會心となることがあります。たとへば、或る級の生徒は教師の目をぬすんで、インクを弄ぶと云ふ癖がありました。けれども、不圖したことで、一人の生徒がインクを溢して、自分の着物をインクで染めてしまつた。以來、其の級には『インクを弄んではならない』と云ふ社會心が出來てしまひました。

或る町の町民は、學校の教師に對して批評的な冷たい目を向けて居るのが習慣でありました。處が、一人の生徒が登校の途中ころんで怪我をしました。其れを見付けた

教師は親切に介抱し、繃帯して其の子の家に送り、そして、其の日の放校後には見舞ひに行きました。すると、『教師つて親切な者ですね』との噂が始まり、其の後、度々其の子供を見舞ひに行くうちに町民達と打ち解けて話すようになり、ツイには、學校の教師に對する町民の態度が全然變つてしまつたと云ふことです。

又、或る級の男生徒の一組は非常に亂暴な氣風を持つて居て、いつも教師は持て餘まして居ました。生徒達は授業中にも絶へず惡戯を續けて居ます。或る時、一人の男の子が紙をまるめてインキに浸し、其れを教師に投げ付けました。それが教師の胸に當つて教師の着物にインキの跡が大きく付きました。教室内は死んだように靜かになりました。生徒達は先生が烈火のやうに怒るのを豫想して居たのです。處が先生は眉毛一本動かさずに、恰も何事もなかつたかのように全く平靜に讀方の授業を續けて居ました。其の時の教師の崇高な人格が生徒達の頭に深い印象を刻みつけました。以來其の教師に面倒をかけるものは一人もなく、皆、教師の味方をするようになりまし

た。

これ等の例は不圖した出來事で、つまり、全生徒の心を變へる原因としては皮相なものでありますが、それでも、全生徒の間に構成されてゐる社會心を變更するには充分であります。惡性の社會心を變更すべき敎師の人格は常に現れて居つたのですが、併し、それが不圖した出來事によつて明らかに證明された時に有力になるのです。それとは、又、反對に、敎師が始めて就職して來た時には評判がよくても、ぢきに、生徒からも町民からも人望を落すような場合もあります。

一般の印象

普通の人は毎日々々いろ〳〵の種類の問題を耳にします。そして、其れは主もに新聞紙から、又は、噂からであります。新聞は毎日々々いくつも〳〵の問題や報道を人の心の上に投げ付けて行きますが其のうちの或るものは心の表面をスーッと通つて消へてしまいますし、又、或るものは心の奥迄喰ひ込んで深い印象を殘して行きます。

そして、各人の確定した智識の周圍には無數のうすぼんやりした感銘が殘されます。其のうすぼんやりした感銘が一般の印象です。で、其の一航の印象は新しい問題が起つた時には忽ち確定した印象となり、其の問題に對する各人の態度には變化が起ります。けれども、一般人が其の問題に注意を向けて居る間は其の態度變更の可能性がありますが、併し、一度注意をしないようになるならば、其の態度は確定してしまいますから容易に變らないようになります。

輿論

起つた問題が重要な、そして、永久的なものであるならば、それ迄は一般の印象であつたものが輿論と云ふかたちになります。が、輿論が出來る迄には議論を戰はすと云ふ過程を經なければなりません。

一般の印象と云ふものは決して一致して居りません。且つ又、其れを二つに又は其れ以上の數の種類に分つことも出來ません。一般の印象と云ふものは、いはゞ朦朧と

した霧のやうなものです。一般人が、唯、霧のやうにうすぼんやりした印象を持つてゐるものに就て問題が起つた時には、議論が非形式に、又は、形式的に戰はされます眞面目な新聞雜誌は眞劍な意見を發表します。それ〳〵の意見の正しさを證明する證據が擧示されます。又は、他の方面からの實驗が擧げられて一般人の心の趣むくべき方向を明らかにします。かくして、ツイには、一ッの意見が優勢になります。社會が其れ自身の心を造つたのです。つまり輿論が構成されたのです。

此の輿論が構成される過程の例を、又、敎室にとるならば、一人の生徒がいつも敎師を苦しめて居るとします。其れを見かねた外の生徒達は彼等の間で時々其れを話題にします。話がだん〳〵進んで、各方面から其の一人の生徒の行爲を話し合つて見ますそして、ツイには、どの點から考へても其の生徒がよくないと云ふことになります。つまり、其の一人の生徒に對する輿論が出來たのです。それから、どうするかと云ふと、生徒達一同が會合して、其のうちの三四人が演說をして、生徒達一同は敎師を後

援して其の一人の生徒に反對して立つと云ふことを宣言し、勿論其の一人の生徒にも其意志を通知します。それ以來、其の一人の生徒は教師を苦しめることを止めたと云ふ場合もあります。

多くの場合ひ、個人の意見は輿論に呑まれてしまいます、內心はどうでも表面は其れに從つて居なければならない場合ひが往々あります。かくして、社會は大規模の計畫を立て、其れを完成することが出來ます。そして、其れには有効な交通が基礎となつて居ります。

たとへば、或る事件に對して全校の生徒に寄附金をすゝめるとします。幾人かの生徒は內心では寄附したくなくとも、他の生徒が皆するので、出し惜しみをするように思はれるのを厭ふて、同じように金を出すと云ふことは常に行はれてゐる事實です。

けれども、輿論と云ふものは、一般の印象と同じく、常に一致して居るものではありません。反對な意見を戰はして居る間に或る點に一致を見出したり、他の點に烈し

い差を見出したり、或ひは、又、新しい意見が飛び出したりします。けれども、さうして居るうちに、問題ははつきりして來て、一般人が容易に賛成不賛成を云ひ現し得る處迄進みます。もし、問題が直接に一般人の利害に關するものであるならば、議論は一層鋭くなつて、反對論は巍然と二つに分れたまゝ論戰を續けます。が、やがて一方は負けて論戰は止みます。或ひは證據不充分のために勝負なくして止むこともあります。

一般の情操

長い以前に論議し盡された問題に關しての社會心の狀態は、目前に輿論として知られてある社會心よりも確實になつて居ます。それは、むしろ、潜在感情とか、又は一般情操とか云ふべきものであります。そして、それは、むしろ、無意識ではありますが、併し、確實に存在して居るものです。其の情操に反對な行動をとる人があるならば、其の人は忽ち社會からの攻擊の的になります。もし、又、其の人の行動に賛成す

る意見でも發表するならば　これも亦恐しい力で反對されます。ですから、少なくとも、公人は危害を避けようとするならば、其れ等の情操の性質を知つて置く必要があります。

結着の付かない議論には、大抵、根底の深い社會心がからまつてゐます。又、地方的或ひは階級的利益の衝突があります。米國に奴隷制度が存在してゐた時に、奴隷所有者はそれが不正であることを承知して居ながら、其の制度の廢止論に反對しました。

公立學校の教師達は彼等の俸給の上ることを常に望んでゐます。けれども、出納官吏の方では、納税者に味方して、其れを抗むうとする態度を取ります。又、宗教家と普通の教育との教育觀の間には常に相容れない點があります。これ等の立場を異にした者の間の議論はめつたに落着する時がありません。で、本當の意味の輿論は多くの場合ひ、局外者のうちにのみ見出されます。地方的、階級的、又は、宗門的利益と云ふことが社會心の永久的な相です。其の相は其の相を造り出して居る根に變化がない

限りは變化しないものです。

根底の深い、永續的な社會心は道德的情操であります。この情操は最小の集團にも一國のうちにも同じように、そして、常に存在して居るものです。それは人間性に其の根を持つて居るからです。表面的には場所により時代によつて此の道德的情操は異つては居ますが、併し、兩性の間や親子の間を規定する法律は大體一致して居ます。眞實と云ふこと、隣人に對する親切と云ふこと、人命及び自由に關し、國家に對する忠義心に關し、又は、財產に關しては何處の國でも大體に於ては同じで違ひのあるのは僅かな部分です。

道德的情操

法律を造らうとするそれ等の情操を解剖し其の根源に遡つて見るならば、其れは皆倫理から出立して居ます。それが、度々、神の意志から來て居るように考へられてあるのは、取りもなほさず萬人のために必要であることの證據です。そして、其の必要

は社會改革家や立法者が明確に認識し、一般人は無意識のうちに認めて居るのです。即ち、人命の最高價値を保存しようとするものです。民法や刑法は、社會全員のために社會心が造つた規定を墮落した社會員に强ひようとするものです。普通一般人は柔順に其の規定に從つてゐます。と云ふのは、其の規定は社會心が造つたのであり、彼等自身も其の社會心の一部分であるからです。

『子供の良心は、彼の社會的經驗によつて定められる。彼の行爲に對する周圍の人々の反動によつて彼は或る行爲は自由であり、或る種類の行爲は愼しまねばならぬと云ふことを認めるようになる。そして、成熟するに從つて、ものゝ善惡が追々に明瞭になり、其の上に、歷史や文學や宗敎の敎へによつていよ〳〵彼の行爲の標準は定まり理想的行動に關する觀念も出來る。』と、オーシア敎授は申ます。

又、習慣が道德となる一例として或る學者は云つてゐます。『衣服をもつて身體の全部を覆ふのが習慣になつてゐる文明國に於て、野蠻人のやうに身體の大部分を露出

して居るなら、不道徳な奴だと非難される。衣服の型にしてもさうだ。今迄、一般に用ひられてゐた型と、とび離れた型の衣服を着るならば、不道徳だと目される。何故なら、其れは習慣を破つたのだから。けれども、其の型の衣服が一般に用ひられるようになれば、其の不道徳だと云ふ觀念は消へてしまう。實に、道徳は習慣によつて造られるものだ。』

太平洋上より

山田嘉吉

太平洋上の一植民地と云つてもいゝだらう、實に、此の大洋丸に乗り込んだ船客は一〇〇一人ある。これだけの船客と、此の船客を世話する船員、其の他の仕事に從事して居る船員を皆合せたなら大變な人數になる。だから、船中には郵便局もある。床屋もある。寫眞現像屋もある。庭園もあらゆる娯樂の設備もある。外部的に人を樂しませようとするものは何にも缺けてゐない。今日はダンス、今日は何の競技、今日は活動寫眞と船客達は毎日浮かれ樂しんでゐる。

船客の種類を分けて見ると三つになる。勿論外人は別にして、其の一は純粹の商人、其の二は青年再渡航者、其の三は贅澤な馬鹿、何にも用はない、唯、馬鹿をするために海外に行くのだ。又桑港から書く。

新刊紹介

◎家庭の社會的意義

山田わか著
近代文明社發行

兩性相慕ひ、そして、子を持ち、子の父が母子の衣食のために働くと云ふ根本的事實のめぐりに婦人は習慣と云ふ織物を織り、家庭と云ふ形式を造りました。そして、此の家庭の範圍がだん〳〵擴がつて社會と云ふものになりました。ですから、此の家庭の社會的意義が了解出來ないうちは、社會問題は殊に婦人問題は完全には了解出來ない。從つて、其の解決は覺付かないのであります。

其の理由から私は多年家庭の研究を續けて居ました。そして、家庭を尊重しなければならない理由を明らかにすることに勤めて來ました。

以來約十年の間公に致しました私の論文集は（翻譯の外）六册程ありますが、其のうちで此の度近代文明社から出しました「家庭の社會的意義」は最も組織的になつて居ると云ふ自信を持つて居ります。これ迄は、唯、雜然と論文を並べただけでしたが、今度は第一編「婦人問題と家庭」第二編「戀愛と結婚」第三編「婦人と教育」第四編「婦人と產業」第五編「婦人と政治」第六編「母性の革命」第七編「母性保護と新國民」第八編「現代思想と責任觀」第九編「家庭の使命」と云ふような順序をつけて、四十一章から成つて居ります。そして、私の一貫した主張が此の『家庭の社會的意義』によつて明らかになるようにして置きました。勿論、本誌に一度掲載したものも、外の雜誌に出したものもありますが、要するに、私の主張を一貫するために組織的に編纂しましたのです。御書齋に一本を御加へ下さいますならば幸せです。（定價二圓八十錢東京神田區猿樂町一七）

餘白がなくなりましたからいつもの「編輯の後」はやめました。

本誌定價表

一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金　金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金　金貳圓七十錢	（送料共）

雜誌代及郵稅は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十一年五月二十三日印刷納本

大正十一年六月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直太郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

口山田わか著

口四六特三百五十頁　定價金貳圓口

口總クロース美本　送料金拾五錢口

再版

戀愛の社會的意義

目次大要

富を造る事と幸福を造る事――戀愛と結婚――戀愛に對する男子の態度――菊榮氏の『女も進んで求婚すべし』に附て――結婚道徳の一ッ――墮胎に附て――戀愛の自由と本能――女子教育の基調――産業機關は臺所のため――戀愛と藝術――家庭を追はれた産業婦人――婦人運動の歸着點――メレデスの靈肉觀――母と社會政革――婦人の智的生活――禽獸の親子關係【其他十七問題】

東京市四谷區南伊賀町四十一番地

發賣所　振替東京五三六八八　婦人と新社會社

山田わか女史著

最新刊

女 人 母

四六版本製
三百五十頁
装幀美装
正價金壹圓七十五錢
送料八錢

『家庭の危機』以下二十五編悉く女として人として母としての自覺を經とし、家庭生活の高調を緯とし、婦人勞働、女子教育及び戀愛と結婚を最も健全な人生觀、則ち社會學的見地から織り込んだものが此の新著である。最も進歩した婦人の立場から此の文明批評は確かに不健全にして有害な多くの婦人論を一掃する。

山中峯太郎著

姉妹の胸へ

好評三版

定價一圓五十錢（送料八錢）

姉妹の胸へ！より崇く新しき愛の胸へ！この書に含めるいのちありと信じてさゝぐ

發行所
東京市本郷區春木町二丁目
振替東京八二一九
森江書店

山田わか女史著

新刊

家庭の社會的意義

四六判ポイント活字組五〇〇頁洋布裝函入
美本　定價金二圓八十錢　書留送料十八錢

新しき自覺の上に人間性の發揮を主張する堂々たるこの文字！

果然反響は現れたり、發賣以來註文殺到！

日頃「婦人と新社會」を愛讀せられる諸兄姉は是非、更に進んで本書を一讀せられんことをお勸めいたします。何故ならば本書にはわが婦人評論家の隨一たる山田女史の主張が一貫して、秩序正しく述べられてあるからであります。婦人は之に依て彌々自己の使命を明確に覺ることが出來、男子は之に依つて眞摯なる婦人の要求が奈邊にあるかを知ると共に、社會の改造が如何に家庭の改造に俟つべきかを敎へられます。

內容　家庭の進化—婦人問題と家庭—戀愛と結婚—婦人と敎育—婦人と產業—婦人と政治—母性の革命—母性保護と新國民—現代思想と責任觀—家庭の使命—（以上十編四十一章）

發行所　東京市神田區中猿樂町一七　近代文明社　電話九段二一五六番　振替口座東京五八五八六番

